

三郷の地区組織

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 美貴 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/31221 |

2. 三郷の地区組織

鈴木 美 貴

1. はじめに
2. 三郷地区の運営
3. 地区内の団体
4. おわりに

1. はじめに

今回三郷地区の調査を行っている中で、「三郷」とひとくくりにされている「出田」「広栗」「鈴内」がそれぞれに独自の区運営や活動を行っていることに気づいた。それは共通しているものもあれば全く異なる部分もある。住民が区の生活に合わせて運営や活動の方針を変えていることが分かり、「三郷」の中で比較をしてみたらどうなるのかと疑問に思った。また、これらを比較することで隣接する地区の中でもそれぞれの特色が理解できるのではないかと期待を持つようになった。

2. 三郷地区の運営

2.1 出田の地区組織

出田は若山 22 区の中でも上から 2 番か 3 番目に人口が多い地区である（男性、73 歳）。

出田において、区長は選挙を行わず推薦で選ばれる。現区長も前区長の推薦によるという。過去に選挙を試みたことがあるが、投票用紙を配る段階には至らなかったようだ。「推薦では住民の意見があまり出ずに決まってしまう事が多い為、良くないのではないか」と案じる声（男性、64 歳）もあるが、区長を好んでやろうとする人は少ないのだそうだ。なお、区長には 20000 円の手当がある。

区長の他に、地区には会計 1 人と班長 7 人（7 戸）が存在し、任期は区長と会計が 2 年、班長が 1 年である。会計は区長の選任による。区役員は 1 月に選出され、2 月に総会が開かれる。総会の

出席率は高く、70人前後の区民が集まるといふ。弁当が出るということが理由ではないかとの意見もあった。

出田の会計の主な仕事は、区長の補佐として会議に同席することと、決算を作ることである。現会計のIさん（男性、63歳）は10年間仕事を務めて3人の区長を補佐してきたという。会計は区の会計、宮、集会場の通帳（計約300万円）を所持している。会計を務めるにあたって重要なのは区長との信頼関係であると現会計は言う。なお、区費は各班の班長が集めて会計まで持っていく。

出田は、昔は4つの班に分かれていた。当時の班長は推薦で人望のある者が選ばれ、班長の仕事としては班内の葬儀一切を取り仕切るなどがあり、「台所親父」とも呼ばれたという。市の下請けの仕事が増え始めると、区をやりくりしやすいように班は5つ増やされた。以後、班長は班内で順繰りでの担当になっている。班の集会では班内の役職を決定する。なお、班長には8000円の手当がある。

出田で行われる集会には「若山林業公民館」が用いられる。この公民館は「林業」を冠しているが、現在出田地区に林業組合は存在しない。また林業自体も衰退している。出田小学校が廃統合される際に市との交換条件として各地区に集会場を建設したが、これには当時の費用助成の存在が大きかった。減価減却の年数経過により、数年前に集落の財産となったが、土地代はいまだに年6~7万円支払っている。一律3000円徴収される集会場維持費分担金はこの地代に充てられている。

2.2 広栗の地区組織

区の運営については、区長1名、副区長1名、相談役6名、班長6名で行う。班長以外は任期2年、班長は1年である。役員を選抜方法は、区長、副区長、相談役については年に一度2月の第一日曜日に開かれる寄合で決定される。区長は推薦、副区長は区長の選任による。相談員は適宜、案を作成し、賛同を得て決定する。班長は各班で順番に回って来ることになっている。寄合は年の初めに行うことから「初寄合」と言うこともある。稀に臨時総会を開くこともある。寄合では役員選定の他、事業計画や区費の会計報告が行われる。場所は広栗の集会所を利用する。これは市に半分援助をしてもらい、あとは区費で建設した。集会所を作るブームのときに建設され、30年ほど経っている。土地は広栗在所の住民のものであり、賃貸しているということ。（男性、63歳）広栗の区費は各家一律の戸掛（とがかり）に加えて、土地の所有面積に応じて徴収される地価掛（ちかがかり）がある二段構えとなっている。また広栗の収入には「年貢収入」が存在し、ここでは野々江用水の使用費を徴収している。

広栗は6つの班に分かれた区集落である。1班7軒で構成され、1・2班を「川辺（カワベリ）」、3・4班を「刈山（カリヤマ）」、5・6班を「山岸（ヤマギシ）」と呼ぶ。かつては班それぞれで運動会を行うなどしていた。また葬式などでは2つ（稀に3つ）の班が協力して行っていたが、現在は協力したとしても1つの班内に留まり、大規模に結束して物事にあたることは少なくなってしまうそうである（男性、68歳）。1つの班につき1人相談役がいる。班長の仕事は区長からの連絡を班内に回したり集金したりすること。広栗では各班ごとに集金し、まとめて納税する形を取っている。かつては班で納税すると少額の報酬があり、それを区費に加えていた。今は振り込みであることが多いが広栗では従来のやり方を引き継いでいる。

2.3 鈴内の地区組織

鈴内には区長1名、事務局（書記会計）が1名存在し、それぞれ任期は2年である。区長の選挙は無く、役員会で自選し総会で承認されるという形をとっている。ここで言う役員会とは、書記会計1名、監事2名、集落員10名、氏子総代5名、各種団体長で構成される。主に事業及び予算や決算の審議が行われる。

また鈴内には監査委員が存在する。監査委員は、年に一度の区の総会で提出される資料が正しく書かれているか、また帳簿が正しく記帳されているかを確認する。集落員の決定する事業や会計についても監査委員がチェックをし、書類作成を補助する。監査委員の任期は2年で区長と同時である。若山地区内のたいていの地区に存在する。

その他の地区の係としては、神社や寺に関わる宮係と寺係、また用水の管理運営を行う用水係や、地区の住民が結婚した際に周囲の家々へ食べ物を配る世話係などがある。世話係はかつて若者頭と呼ばれていたが、若者の減少によって現在の呼び名になった。

鈴内の総会は前述のように年に一度、2月の第一日曜日に開かれる。事業及び予算、決算、役員改選、規約改正について主に決定する。鈴内の規約は昭和51（1976）年4月1日に実地され、平成17（2005）年2月6日に改正されている。

なお、鈴内の区費は年一律1万円である。神輿を直すなどの経費が必要となると、追加金額を総会で決定する。

鈴内は5つの班に分けられている。神社参りの時は鈴内の全班が道祖（フナト）神社にお参りをするが、川坂谷内（カワサカヤチ）という班だけがそれに加えて神明宮（シンメイグ）にもお参りする。かつては農協が各班につき一軒、日常雑貨品を置いて販売させていた。商品は醤油やインスタントラーメンなど。一年ごとに担当の家を変えて行っていたが今はやっていない。また各班には一人ずつ氏子総代と、二人ずつ集落員（部落委員とも）がいる。集落員は事業や会計について決定する。

表1 三郷地区の役員

| 区長 | 人数 | 任期 | 副区長 | 人数 | 任期 |
|----|----|----|-----|----|----|
| 出田 | 1名 | 2年 | 出田 | - | - |
| 広栗 | 1名 | 2年 | 広栗 | 1名 | 2年 |
| 鈴内 | 1名 | 2年 | 鈴内 | - | - |

| 会計 | 人数 | 任期 | 班長 | 人数 | 任期 |
|----|----|----|----|-----|----|
| 出田 | 1名 | 2年 | 出田 | 7名 | 1年 |
| 広栗 | - | - | 広栗 | 6名 | 1年 |
| 鈴内 | 1名 | 2年 | 鈴内 | 10名 | 2年 |

(出所:筆者作成)

3. 地区内の団体

3.1 青壮年の会

3.1.1 出田会

出田会は現在10名ほどの男性が活動している青年会である。年齢制限は設けておらず、現在の最年少会員は24歳である。役員は会長1名、会計1名と各班に班長。活動内容は祭りの手伝いや、戦没者記念碑の草刈り、珠洲市から要請を受けて行うトライアスロンの交通整理などである。特に秋祭りではキリコを出したりと活動が活発になる。「キリコを作る人が少なくなり、大事にしていこうという活動をするのが出田会です」とはIさん(男性、36歳)の言葉である。20年前は「出田青壮年部」という名称で、40名ほどが所属していたという。

3.1.2 青壮年部

鈴内の青壮年部は、社会人になった男性で、世帯主になる大体50歳までの年齢の男性の会である。10年程前までは45歳までが規定であったが人口の減少にともない上限をあげることにした。何歳から参加可能になるかの規定は特に無く、参加は自由である。役員は会長1名、副会長1名、会計1名、事務局1名。会長は年功序列で、仕事内容は年間計画や行事の段取り、連絡などの雑務である。事務局は役員会、総会に関する連絡を手紙で行う。年会費は1万円。現在の会員は12名で、年齢層は28歳から53歳であるらしい(男性、44歳)。会員の職業は公務員、建設業、家業など様々だが兼業農家が主である。また50歳ぐらいになると五親会から紹介状が届き、そちらへ移ることが可能になる。総会で正式に脱会し周知される。

鈴内青壮年部の主な活動は春祭りの運営である。他にも忘年会で親睦を深めるなどしている。かつては家屋などの解体作業を行う際に青壮年部から人手を集めていたが、保険など規制が厳し

くなってからは行わなくなったという。また最近では青壮年部と子供会の活動が重複することも多いそうだ。青壮年部が現在行っている盆のキリコも元は子どもキリコであった。住民のKさん（男性、54歳）が若い頃は地区ごとに青年団が存在し、高校を卒業してから地元に残っている若者は自然な流れで青年団に参加していたという。またTさん（男性、84歳）が青年団に入った時は会員が50名ほど存在し、活発に活動していた。県道の整備を行ったり料理を作ったりといった活動をしたそうだ。

3.2 老人会

3.2.1 睦会

「睦会」とは、鈴内の老人会のことである。およそ20年前に元々三郷地区内で構成されていた老人会の「三松会」から鈴内が独立して出来た。会長1名、副会長2名、会計事務1名を置く。任期はいずれも2年で、推薦で決まる。65歳から入会することができ、最高齢は87歳を筆頭に、現在は63名の会員がいるが、これは鈴内のほとんどの老人である。会費は2000円で、寄付金が入ることもあるという（女性、75歳）。

会の主な目的は、ゲートボールなどを通じて会員同士の親睦を深めることであるという。月一で集まりを開いており、県の人を呼んで健康づくりや、警察を呼んで交通安全について話をしてもらったりする。他にも旅行をしたり会員の喜寿を祝ったり、故人の供養をするなどといった活動を行っている。自分達が育てた野菜や果物を売買する「いきいき祭」を催すこともある。また、睦会はスポーツが強く、珠洲市全体での大会で優勝する程の実力を持っている。

3.2.2 実年会

「実年会」は広栗の老人会で、10年以上前に青壮年部と三松会の中間の会として当時の45～65歳の住民で始めたものである。現在は65歳以上になると参加できるもので、基本的に男性が所属し、懇親をはかることを目的としている。現在の会員は22名だが、実際に集まってくるのは16～17名である。活動は年一回の新年会と、日程が合えば忘年会をする年もあるということ。年会費は無く、活動のたびに集金をするが、提示した金額よりも多く支払ってくれる人がいるため、毎回残金を積み立てている。

3.2.3 三松会

「三松会」は昔三郷地区の老人会として30名ほどで結成されたものだが、後にそこから鈴内が抜けて現在の形になったそうである。60歳以上が会員になることが出来る。現在の会員は40名ほどだが、実際に活動をしているのは25名弱ぐらいで、会費を納めるだけの人がほとんどである。

総会の時は30名ほど集まるらしい。男性より女性の方が多いという。会費には市から補助金が出ているため、年会費は4～5月に2000円程納めることになっている。補助金の関係で市から毎月何か活動をするように言われている。その主なものとしては、近辺の旅行やゲートボール、宮の掃除などである。

3.3 婦人部

3.3.1 広栗婦人部

「広栗婦人会」は、60～70代の女性がほとんどで構成されている。若い人でも50代で、それも数人しかいない。現在は40名弱が所属しており、特に取り決めがあるわけではないものの、各家庭から1人ずつ参加している状態である。活動は1月に新年会、3月末に総会（婦人部の活動の確認をする。今年は飯田にある春日神社が10月に行う大祭の接待を任されたことなどが報告された）、8月に婦人お講、田の神様あたりの時期に収穫祭の手伝い、加えて地域の諸団体やイベントの手伝いなど、精力的に活動しているという。特に農閑期に活動する。現在の活動のメインは、乗光寺の婦人お講である。話の合う世代がいれば参加するという人が多いため、年を取ると老人会へ移動することが多くなる傾向がある。昭和60（1985）年頃までは「広栗婦人学級」として毎月15日に着物の着付け教室など勉強会を行っていた。特に会費を集めることはなく、寄付や婦人お講の残金で活動していたが、当時の書記を務めていた方が亡くなったため活動が減り、自然消滅してしまったという。勉強会は講師の都合で基本的に平日しか行われなかったため、参加者は高齢の者が多かった。「だから世代交代をするのが難しかったのではないか」とKさん（女性、73歳）は言う。

3.3.2 鈴内婦人部

「婦人会」について、鈴内にはかつて現在の「美鈴会」の前身である「鈴内婦人部」があったという。各家庭からたいてい1人ずつが参加しており、珠洲が「市」に認定されて市政が始まる年に部落ごとに列に並んで飯田の町を踊り廻った。夜に鈴内の集会場に集まって練習していたそうだ（女性、75歳）。

3.4 その他の団体

3.4.1 五親会

「五親会」は45から65歳の男性から成る会であり、現在の会員は22名である。地区内で該当年代の非会員は6名おり、入会は基本的に自由である。会長1名、副会長1名、事務局長（会計）1名、各班1名ずつ計5名の地区委員が役員として存在する。それぞれ任期は1年で、会長と副会

長は年齢順に順繰りで任命される。副会長をした人が次期会長になる仕組み。元会長は監事（顧問）となる。地区委員は輪番制を取っている。会費は年1万円で、地区委員が会員から回収して事務局長に提出する。行事の予定表や書類の管理は全て事務局長が行っているという。集会は議事がある時のみ文化センターで行われる。議事は草刈りについて、総会について、行事についてなど。土曜に行われることが多いが特に決まっているわけではないらしい。年一回以上役員会が、2~3月に総会が開かれる。役員会の決定事項は地区委員を通して各会員に伝えられる。総会では年間行事についてや、会計報告、役員選出がなされる。

五親会の活動では地元住民との触れ合いを目的として慰安旅行に行ったり忘新年会などの行事を行ったりする他、月に一、二回農土の草刈りをする。農地の整備や環境美化を目的としている。慰安旅行は日帰りで北陸周辺を旅行すると言う。行先は毎年変わるらしい。五親会の活動には近所付き合いを絶やさない為という目的も含まれる。

3.4.2 広栗子供会

「広栗子供会」に現在所属している小学生は5名、3世帯と少数である。活動内容は3月の卒業生を送る会、4月の入学生を祝う会、夏のバーベキューや花火大会、ラジオ体操など。昭和48(1973)年頃には子供会の行事として七夕や子どもキリコなどもあったという（男性、86歳）。また海水浴やプラネタリウムへ出かけるなど活発に活動していたらしい。会費は各家庭から徴収される。

4. おわりに

以上に述べてきたとおり、三郷地区の中でもそれぞれに異なる生活を営んでいる様子が、データにすることで顕著に感じられた。区の運営方針はもちろん、特に差を感じたのは老人会や婦人会の活発さであった。ある地域で活発な団体があるならば、隣の地域にそれが流れてもおかしくはない。こういった小さな活動一つから、三郷地区の人々がより活動的に、生き生きと暮らしていければ良いと思う。

お話を伺う中で気になったのは、やはり子供会の活動がどうしても小規模になってしまうことを皆さんが懸念している点であった。「私の若い頃はねえ……」「今の小さな子は……」と、自らの過去とのギャップを嘆いている方が多かったように思う。それとは対照的に老人会は活発に活動をしている、とは限らないところがまた不思議だと思った。何か活動をしたい、誰かと話をする場が欲しいと思っている方は私達が伺っているだけでも多かったのだが、やはりそこへ踏み出す勇気となると話が違うのだろうかと思う。

伺ったお話を漏らさずに残せた自信はないのだが、住民の皆さんは私たちの不躰な質問にも快くお答えしてくださり、感謝の気持ちでいっぱいである。本当にありがとうございました。